

## やまとで生きた人々への聞き書き: Time and Place Project

私たちは人々のご経験を聞いて、次世代や後世の人々に伝える活動をしています  
【令和6年度大和市民活動推進補助金(めばえ)事業】

## 第3回ワークショップ

評伝作家・女性史研究者・‘ひろしま’を伝え続ける

## 江刺昭子さんのお仕事に学んでいこう！

日時：6月22日(土)14時～16時

場所：大和市民活動センター・会議室2 (大和市深見西1-2-17)

講師：江刺昭子氏 (ノンフィクションライター・女性史研究者)



昨年、「歴史工房やまと」を立ち上げたとき、最初に私たちに神奈川県的女性史の豊かな歴史叙述を垣間見せてくださったのは、江刺昭子さんでした。やまとで聞き書きを始めたいと願っていた私たちに女性史編纂や聞き書きのプロセスについてもお話し下さり、小さなグループの私たちに勇気を与えてくださいました。それから、約半年、「歴史工房やまと」は活動を続けていますが、大きな課題は仲間を増やしていくこと、そして私たちの活動をより多くの市民の方たちに知ってもらうことです。今、もう一度江刺昭子さんのこれまでのお仕事に学ぶことで、力を得ていきたいと思っています。

「聞き書き」には、忘れられた市民の声をもう一度呼び起こす力があり、私たちに先人たちや同時代を生きた人々の人生から多くを学ぶ機会を与えてくれます。しかし、同時に、聞くことと書くことには現実社会の力関係が作用します。社会学者たちが「マスターナラティブ」とよぶように、その社会の規範にかなう語り知らず知らずに出てきます。そうした語りは、その時代の文化を反映するものであり、規範的な言説を自覚的に聞いていくことも「聞き書き」の大きな力の一つです。もちろん、社会の規範文化を代弁するのとは逆の視点も聞き書きには現れてきます。話すこと、聞くこと、書くことは話し手、聞き手、書き手が向き合っている力関係と無縁ではない、という難しさがあります。聞き書き実践者はそうした現実にも悩んだりします。私たちは、江刺昭子さんの女性史編纂の指導経験をうかがって、聞くことから分析までの過程を学んでいきましょう。

江刺昭子さんのメインのお仕事は、高い評価を受けている数々の評伝です。それらは、限られた時間の数回のインタビューをはるかに超えた長期間の取材、ありとあらゆる関係者に話を聞いていくこと、そして、人物の内面に深く分け入った解釈、さらに書き手の内面も現われてくるような叙述へと昇華されていきます。

江刺昭子さんのこれまでのお仕事、時代の規範を乗り越えて生きた女性たちを対象にした評伝執筆、地域の一般市民への指導、そして、デビュー作『草履—評伝大田洋子』以来の「ひろしま」を伝えていく活動についておうかがいして学んでいきたいと思ひます。

(文責)酒井順子(080-4201-7568),rekishikoboyamato@gmail.com

主要著作：『草履 評伝大田洋子』1971年、『覚よ女たち 赤瀬会の人びと』1980年、『女のくせに 草分けの女性新聞記者たち』1985年、『逗子は燃えた、そして、池子住民訴訟ノート』1990年、『女の一生を書く評伝の方法と視点』1994年、『透谷の妻 石坂美那子の生涯』1995年、『中央区女性史、いくつもの橋を渡って 通史』2007年、『樺美智子 聖少女伝説』2010年、『私だったかもしれない ある赤軍派女性兵士の25年』2022年、『時代を拓いた女たち』1～3編著、『史の会研究誌』1～7号編著他多数。

